

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

公民館

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	施設数	施設	3	3	3	3
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	指定管理料	千円	102,600	103,282	105,128	98,295
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

適切な維持管理及び運営のもと、社会教育の中心施設となる。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	利用者数	人	139,851	159,343	179,560	174,200
成果指標2						

事業費の推移		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	106,620	105,501	107,381	100,485	
正職員人件費(B)	千円	1,901	1,858	1,924	1,976	
総事業費(A+B)	千円	108,521	107,359	109,305	102,461	

事業内容（主なもの）			費用内訳（主なもの）
6年度			・指定管理料 105,128千円 ・指定管理協定の締結 ・施設及び物品の修繕

<b>事業開始背景</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成元年 中央公民館開設</li> <li>・昭和59年 野幌公民館開設</li> <li>・平成9年 大麻公民館開設</li> </ul>
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成18年度から指定管理者制度を導入</li> <li>・施設の老朽化</li> <li>・市民の学習ニーズの多様化</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、令和2年度及び令和3年度の一部期間を臨時休館とした。</li> <li>・令和4年度指定管理更新時に、指定管理期間を4年間から8年間に変更した。</li> <li>・使用料・手数料の見直し方針に基づき、令和6年10月から公民館の使用料を改定</li> </ul>

<b>令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）</b>		
<b>成果動向及び原因分析</b>	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	コロナ禍前の水準までには至らないものの、利用者数は回復してきている。
	<p>上がる</p> <p>どちらかといえば上がっている</p> <p>上がっていない</p>	理由根拠
<b>成果向上余地</b>	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	地域活動や市民の活動数が新型コロナウイルス感染症の収束後から徐々に回復しており、利用者数の増加が見込める。また、地域課題や受講者のニーズを把握し、事業内容や講座のメニューの充実を図ついくとともに、施設環境を整備することで、成果向上の余地がある。
	<p>成果向上余地 大</p> <p>成果向上余地 中</p> <p>成果向上余地 小</p>	理由根拠
	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	指定管理者の運営努力により経費の削減は図られているが、燃料費等の高騰や、施設の老朽化が進み、維持修繕費が増加していることなどから、これ以上のコスト削減は困難である。
<b>コスト</b>	ある	理由根拠
	なし	

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	一	終了年度	一	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

コミュニティセンター

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	指定管理料	千円	18,269	17,994	18,131	17,062
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

適切な維持管理及び運営のもと、市民相互のふれあいのなかで地域経済活動の促進を図り、地域づくりの拠点となる。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	利用者数	人	100,826	107,729	97,452	94,700
成果指標2						

	事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	18,269	17,994	18,131	17,062	
正職員人件費(B)	千円	1,141	1,115	1,154	1,186	
総事業費(A+B)	千円	19,410	19,109	19,285	18,248	

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
6年度	・指定管理協定の締結	・指定管理料 18,131千円

### 事業開始背景

- ・平成元年 コミュニティセンター開設

### 事業を取り巻く環境変化

- ・平成18年度から指定管理者制度を導入
- ・施設の老朽化
- ・新型コロナウイルス感染症拡大を受けて、令和2年度及び令和3年度の一部期間を臨時休館とした。
- ・令和4年度指定管理更新時に、指定期間を4年間から8年間に変更した。
- ・使用料・手数料の見直し方針に基づき、令和6年10月から施設の使用料を改定

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	利用者数はほぼ横ばいであり、一定の水準を維持している。
	どちらかといえば上がっている	理由根拠
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	地域活動や市民の活動数がコロナ禍以前の水準に回復してきており、利用者数の増加が見込める。また、地域課題や受講者のニーズを把握し、事業内容や講座のメニューの充実を図っていくとともに、施設環境を整備することで、成果向上の余地がある。
	成果向上余地 中	理由根拠
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある	指定管理者の運営努力により経費の削減は図られているが、燃料費等の高騰や、施設の老朽化が進み、維持修繕費が増加していることなどから、これ以上のコスト削減は困難である。
	なし	理由根拠

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	平成8年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

旧町村農場

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	施設数	施設	1	1	1	1
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

指定管理者制度を活用し、施設利用者へのサービス向上及び施設管理運営の効率化を図る。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	指定管理料	千円	8,987	3,526	21,653	21,750
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

適切な維持管理及び運営のもと、江別市における酪農の歴史を伝える場となる。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	来場者数	人	4,850	0	20,952	22,000
成果指標2						

事業費の推移		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	9,299	3,718	22,910	23,893	
正職員人件費(B)	千円	1,141	1,115	1,154	3,557	
総事業費(A+B)	千円	10,440	4,833	24,064	27,450	

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
6年度	・指定管理協定の締結 ・施設の修繕	・指定管理料 21,653千円

### 事業開始背景

平成2年頃から旧町村農場近郊の市街化が進み、平成4年に農場の篠津地区への移転が決定。農場の移転に伴い、江別市を代表する歴史的建造物として次世代へ継承することを目的に、平成7年に市に譲渡された後、復元・整備し、平成8年から一般公開している。

### 事業を取り巻く環境変化

- ・平成20年度から指定管理者制度を導入
- ・令和5年度は休館して大規模改修工事を実施し、令和6年6月にリニューアルオープン
- ・リニューアルオープン後は通年開館となり、酪農の歴史を伝える場だけでなく、地域活性化に寄与する施設となっている。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	令和6年6月にリニューアルオープンし通年開館となり、来場者数は順調に増え、目標人数（令和6年度 2万人）に到達した。
	どちらかといえば上がっている	理由根拠
成果向上余地	上がっていない	
	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	江別の酪農の歴史・産業を伝える施設を基本に、地域の活性化に寄与する施設としてPRを継続することで、来場者数の増加が期待できる。
コスト	成果向上余地 中	理由根拠
	成果向上余地 小	
	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
ある	指定管理者の運営努力により経費の削減は図られているが、燃料費の高騰や通年開館になったことによる暖房や除雪費などの新たな管理運営費用が発生していることから、削減は難しい。	
なし	理由根拠	

## 令和7年度 事務事業評価表【評価版】(令和6年度実績)

事業名：旧町村農場保存活用推進事業

【事業番号

6975】

生涯学習課 生涯学習係

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	令和4年度	終了年度	令和6年度	区分1	継続	区分2	補助	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

旧町村農場

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	旧町村農場	施設	1	1	1	0
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

令和4年度 施設利用ニーズ調査等・実施設計

令和5年度 改修工事

令和6年度 リニューアルオープン

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	事業費	千円	12,138	188,456	3,126	0
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

老朽化した施設を改修するとともに、長期的に市民に親しまれ、多くの人に利用される施設となるよう機能強化を図る。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	改修された施設数	施設	0	1	0	0
成果指標2						

事業費の推移		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	12,138	188,456	3,126	0	0
正職員人件費(B)	千円	1,901	2,230	2,309	0	0
総事業費(A+B)	千円	14,039	190,686	5,435	0	0

事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）
6年度	・Wi-Fi設備の設置 ・施設整備 ・貸室使用のための備品購入等	・工事費（Wi-Fi設備設置等） 772千円 ・備品等購入費 1,654千円

### 事業開始背景

旧町村農場は、江別市が平成7年に取得し、平成8年から江別の酪農の歴史を伝える施設として広く利用されているところであるが、建築から90年以上が経過し、大規模な改修が必要な状況である。このため施設を改修し、江別市の酪農景観と歴史、北海道酪農の先駆者である町村敬貴の業績を伝える場だけでなく、新たな機能を付加した施設へ改修を図ることとなった。

### 事業を取り巻く環境変化

- 施設改修にあたっては、市民の意見を取り入れるためのワークショップを開催し、令和4年11月に「江別市旧町村農場保存活用整備方針」を策定。整備方針に基づいた実施設計は令和4年度に終了し、令和5年度に大規模改修工事を行う。
- 改修工事及び展示改修工事は令和5年度に完了し、令和6年6月6日にリニューアルオープンした。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	リニューアルオープン前に必要な設備設置工事等を実施した。利用者は目標の2万人を超え、多くの市民に利用されている。
	どちらかといえば上がっている	
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	建物と展示の改修工事等は完了した。
	成果向上余地 中	
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある	建物と展示の改修工事等は完了した。
	なし	

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	昭和36年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金 団体運営補助

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市子ども会育成連絡協議会（江別地区、野幌地区、大麻・文京台地区の各育成会から構成）

指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1 極端金交付団体数	団体	1	1	1	1
対象指標2 市内の各地区子ども会育成会の数	団体	3	3	3	3

## 手段（事務事業の内容、手法）

江別市子ども会育成連絡協議会が取り組む、幅広い年齢層の子どもたちへの豊かな体験活動と各地区育成会の行う活動に対し、「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき補助金を交付する。

指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1 極端金額	千円	737	737	737	737
活動指標2					

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

江別市子ども会育成連絡協議会及び各地区育成会において、各種体験型事業が開催され、参加する児童・生徒数が増えることで、会の活動の活発化と子どもたちへの体験の機会が図られる。

指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1 子ども会活動への地域住民の参加延べ数	人	90	120	122	100
成果指標2 子ども会活動の取り組み数	件	10	12	13	13

事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	737	737	737	737
正職員人件費(B)	千円	1,521	3,717	3,848	3,952
総事業費(A+B)	千円	2,258	4,454	4,585	4,689

年度	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）	
		費用内訳	主なもの
6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>青少年キャンプ村、ドッヂビ一体験会、小中学生かるた大会等を開催</li> <li>こいのぼりフェスティバル、スノーフェスティバルへの協力</li> <li>各地区育成会活動や行事との連携、協力</li> <li>ジュニアリーダー養成の支援</li> <li>各種会議や総会等の開催 ほか</li> </ul>	江別市子ども会育成連絡協議会への補助金	737千円

### 事業開始背景

昭和30年代から増加した青少年の非行問題対策と青少年の健全育成のために地域の育成会が行う諸活動の円滑化を目的として開始した。

### 事業を取り巻く環境変化

少子化や地域社会のつながりが希薄化しているとともに、子どもたちも習い事や部活動等で忙しく、地域の大人とふれあう機会が減少してきている。一方で、子どもを見守る大人たちの固定化、高齢化が顕著であり、子ども会役員の世代交代が課題となってきた。

### 令和 6年度の実績による担当課の評価（令和 7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	他自治体の子ども会活動が苦慮している中、江別市子ども会育成連絡協議会においては各地区育成会の連携が円滑に図られ、安定して活動しており、地域の教育力は維持されている。また、令和6年度から主催事業が1件増えたほか、年々各事業への参加申込者数は増加している。
	どちらかといえば上がっている	
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	令和6年度は、これまで江別市市区青少年育成会の主催で実施していた雪中キャンプ事業を、江別市子ども会育成連絡協議会事業として開催し、過去の参加者数を大幅に超える参加があった。各事業において、事業の魅力が地域に浸透しており、年々参加申込者数が増加しているため、今後もさらに参加申込者数が増加することが見込まれる。
	成果向上余地 中	
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある	必要最低限の経費に対する補助であり、これ以上のコスト削減は困難である。また、コストの見直しや、所要時間の削減は成果の低下を招く恐れがある。
	なし	

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	昭和55年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金 団体運営補助

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市青少年のための市民会議

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	補助交付団体数	団体	1	1	1	1
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

江別市青少年のための市民会議が取り組む、青少年の健全育成・非行防止活動に対し、「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、活動費の一部を補助する。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	補助金額	千円	120	120	120	120
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

江別市青少年のための市民会議が行う活動が充実し、青少年を取り巻く環境が向上していく。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	開催事業への参加者数	人	888	745	1,011	1,011
成果指標2						

事業費の推移		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	120	120	120	120	120
正職員人件費(B)	千円	1,901	3,717	3,463	3,952	
総事業費(A+B)	千円	2,021	3,837	3,583	4,072	

年度	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）	
		費用内訳	金額
6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青少年健全育成啓発などの標語募集</li> <li>・少年の主張石狩地区大会の代表者選考</li> <li>・青少年善行賞、善行賞特別賞の選定及び表彰</li> <li>・高校生と連携した、親子向け体験型事業の開催</li> <li>・課外活動を行う団体のマッチング事業の開催</li> </ul>	市民会議への補助金	120千円

### 事業開始背景

昭和50年代に青少年の非行が社会問題となり、地域ぐるみで非行問題改善、青少年を取り巻く環境の浄化が必要とされたため、昭和55年、江別市青少年のための市民会議は市民により結成され、青少年の健全育成のための啓発活動に取り組んでいる。

### 事業を取り巻く環境変化

青少年の健全育成への市民意識の向上に努めているが、高齢化による会員の減少から会費による事業を行う団体として財政面で苦しい状況にある。時代背景としては、近年、非行が減少したことに伴い、健全育成に取り組んできていたが、取り組み内容は、環境調査や街頭啓発など、非行防止時代のものであったことから、令和4年度に抜本的な役員体制及び事業の見直しを行い、現在の事業内容に至っている。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がっている どちらかといえば上がっている 上がっていない	理由根拠 →
成果向上余地	成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小	新たな取り組みの体験型事業については、関係団体等と調整し改善を重ねている。学校、家庭、地域、行政など多様な主体から組織された団体であることから、青少年の健全育成に必要な取り組みについての議論は定期的に行われている。令和4年度に抜本的な組織体制及び事業内容の見直しを行っていることから、現段階で大きな見直しは行わないが、団体内で必要な課題検討ができていることから、今後も成果向上の余地はあると考える。
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	市民会議の財源は、市からの補助金のほか、個人会員及び団体会員からの会費となっており、限られた財源の中で事業を実施する等、既にコスト削減を図っている。近年は、高齢化に伴い会員数の減少傾向にあり収入減が見込まれているが、行政、家庭、学校、地域が協働して青少年の健全育成を推進する事業の趣旨に鑑みると、今後も継続した支援が必要である。
	ある なし	理由根拠 →

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	平成14年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内小中学生

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	市内小中学校児童生徒数	人	8,656	8,719	8,758	8,794
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

地域資源を活用した体験活動を子どもたちに提供する。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	実施事業数	事業	3	3	3	5
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

地域で行う体験活動を通して子どもの可能性を引き出すとともに、学力だけでは計ることのできない感性・意欲・忍耐力などの育成を図る。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	事業参加者数	人	48	54	83	144
成果指標2						

	事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	30	108	122	380	
正職員人件費(B)	千円	1,141	2,230	3,078	2,371	
総事業費(A+B)	千円	1,171	2,338	3,200	2,751	

	事業内容（主なもの）		費用内訳（主なもの）	
	6年度	事業内容	費用内訳	主なもの
	・ツリークライミング体験会 ・はじめてのお泊まり会		・ツリークライミング体験会実施委託料 ・はじめてのお泊まり会指導者謝礼	30千円 25千円

### 事業開始背景

平成14年度からの学校完全週5日制などの環境の変化に対応するため、「江別市体験活動ボランティア活動支援センター」を設立した。支援センターでは、学校を核に家庭と地域との連携を図り、地域資源を活用した様々な体験活動を企画実施してきた。平成29・30年度には、支援センターと子どもたちにとって必要な体験事業の企画を協議の上、地域と連携した2泊3日の宿泊型体験事業を行ったが、平成30年度末をもって、支援センターが休止した。平成31（令和元）年度からは、これまでの体験事業の企画を基に、非日常の体験を子どもたちへ提供すること、学力だけでは計ることのできない感性・意欲・忍耐力などを育成することをめざして、新たに生活体験活動「1泊2日の宿泊学習」及び自然体験活動「ツリークライミング」の2事業を実施している。

### 事業を取り巻く環境変化

令和5年度から、コロナ禍において中止していた各事業が再開している。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	自然体験学習「ツリークライミング」、生活体験学習「はじめてのおとまり会」は定員を大きく超える申込があり、年々申込者数が増えている状況。両事業ともに子どもたちの体験活動への興味関心が高く、成果は上がっている。
	どちらかといえば上がっている	理由根拠
成果向上余地	上がっていない	
	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	参加申込者数が増加しているため、実施回数や定員を増やすことで、参加者数の増加が見込まれる。
コスト	成果向上余地 中	理由根拠
	成果向上余地 小	
	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
ある	事業計画段階から、費用のかからない会場の使用などコスト削減に努めており、また、委託料や報償費については最低限の費用で実施していることから、これ以上の大額なコスト削減は見込めない。	
なし	なし	理由根拠

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	令和4年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

小学校1年生から6年生までの児童

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	市内の小学1年生から6年生までの児童数	人	5,825	5,821	5,842	5,821
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

- ・小中学校への周知や市広報などを通して参加者を募集する。
- ・科学講師を招き、参加者に科学の不思議さや楽しさを伝えながら、考える力を養うきっかけを提供できる体験教室を開講する。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	年間開催回数	回	2	4	3	6
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・科学の不思議さや楽しさを体験することで科学に興味・関心を抱くようになる。
- ・子どもたちの知的好奇心が刺激されることで、疑問に思うことへの探求心が育まれる。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	年間延べ参加者数	人	60	80	68	140
成果指標2						

	事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	58	207	128	232	
正職員人件費(B)	千円	1,141	2,230	1,539	2,371	
総事業費(A+B)	千円	1,199	2,437	1,667	2,603	

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
6年度	科学体験教室の開催	講師謝礼 44千円 実験で使用する物品の購入 57千円 募集チラシ作成 22千円 参加者保険加入 5千円

### 事業開始背景

本事業は、從来から実施していた「発明教室開催事業」の後継事業である。

「発明教室開催事業」は、青少年の科学技術離れが叫ばれるようになったことから、科学技術に対して興味関心を促すことを目的に開始された事業であるが、近年は、「発明」ではなく「木工」を主な活動とするクラブとなっていた。

当初、掲げていた事業開始の目的である「青少年の科学技術離れ」に対する事業として、令和4年度に抜本的に内容の見直しを図った。

### 事業を取り巻く環境変化

令和5年度から開催回数を2回から4回に増回。令和6年度は、高学年の部の申込者数が少なく1回にまとめて開催した経過があり、小学生高学年は、習い事や塾などを要因に申込者が減少する傾向にある。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	参加者数の増減はあるが、市内大学と連携し、子どもたちの興味関心を引く内容で実施しており、高学年の参加者が前年度より減少したものの低学年の部では募集定員を大幅に上回る応募があった。
	どちらかといえば上がっている	理由根拠
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	高学年の部の開催回数を減らし、低学年の部の開催回数を増やすことで、参加者の増加を見込むことができる。
	成果向上余地 中	理由根拠
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある	利用料無料の会場の使用、大学生ボランティアでの協力者等、可能な限りコストを抑えており、これ以上の費用削減は成果の低下を招く。
	なし	理由根拠

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	昭和43年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

市内の小学校4年生から中学校3年生の児童生徒

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	市内の小学校4年生から中学校3年生の児童生徒数	人	5,783	5,859	5,889	5,934
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

- ・家庭や学校などの日常の生活から離れ、自然豊かな環境において、青少年キャンプ村（自然体験活動）を1泊2日の行程により5回開催する。
- ・大学生、専門学生及び高校生から構成されるボランティアサークルが生活指導員を担い、参加者は子どもたちだけの環境の中で野外キャンプを体験する。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	キャンプ村開催日数	日	5	5	5	5
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

野外生活の楽しさを感じるとともに、異年齢との交流及び集団生活を通して、規律ある生活態度・生活技術を学び、子どもたちの主体性や協調性、社会性が高まる。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	参加グループ数	グループ	64	57	73	73
成果指標2	青少年キャンプ村参加人数	人	165	181	203	203

事業費の推移		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	688	783	658	488	
正職員人件費(B)	千円	1,901	2,230	2,309	2,371	
総事業費(A+B)	千円	2,589	3,013	2,967	2,859	

年度	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）		
		・生活指導員謝礼	336千円	
6年度	小中学校の夏休み中に、大学生、専門学生及び高校生から構成されるボランティア団体が生活指導を担い、小中学生を対象とした野外キャンプ事業（自然体験活動）を開催する。	・生活指導員ほか食材	82千円	
		・物品保管庫の移設等委託料	176千円	

### 事業開始背景

- ・昭和43年開始。
- ・高度経済成長のもと、生活様式の急激な変化等により、自然の中での体験活動の取組が健全な青少年の育成にとって重要なものと認識されはじめた。

### 事業を取り巻く環境変化

平成30年度で開催50年目を迎えた伝統ある事業であり、江別市の子どもたちにとって野外体験活動の楽しさを知るイベントになっている。森林キャンプ場は、札幌近郊にある整備されたキャンプ場として利用者が年々増えてきている。令和2年度は新型コロナウイルスの影響により事業を中止した。令和3年度は感染症対策を徹底した上で日帰りにするなど開催方法を抜本的に見直して実施し、令和5年度からはセラミックアートセンターに会場を移し、コロナ禍以前の方法で実施している。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	新型コロナウイルスの影響により、令和2年度は中止とし、令和3年度からは日帰りキャンプとして事業を再開した。令和4年度から人数制限を設けて1泊2日のキャンプを再開し、令和5年度からはコロナ禍以前の方法で実施したが、令和元年度の半分程度まで参加者が減少した。令和6年度は前年度より参加者数が増加している。
	どちらかといえば上がっている	
成果向上余地	上がっていない	
	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	コロナ禍で減少した参加者数も、徐々に回復している。夏のキャンプ事業が、改めて子どもたちや保護者に浸透していくことで、今後はコロナ禍以前の参加者数まで回復することが見込まれる。
コスト	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
ある	高校生・大学生からなるボランティア団体が企画・運営に携わっているほか、当日の運営も、子ども会育成連絡協議会等のボランティアが行っている。また、受益者負担の観点から参加費を徴収する等、市の財源負担を最小限に留める取り組みをしており、これ以上のコスト削減は困難である。	
なし		

## 令和7年度 事務事業評価表【評価版】(令和6年度実績)

事業名 : 江別の魅力「食」と「自然」を満喫できる体験型学習事業

【事業番号

6974】

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦 略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	令和4年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象(誰、何に対して事業を行うのか)

江別市に居住する小学4年生から中学3年生の児童・生徒

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	小学4年生から中学3年生までの児童・生徒数	人	5,783	5,859	5,889	5,934
対象指標2						

## 手段(事務事業の内容、手法)

地域の住民団体やボランティア団体と協働して、江別市の魅力である「食」や「自然」を通じた体験型学習の機会を提供する。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	体験型学習プログラム数	件	2	2	2	2
活動指標2						

## 意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

豊かな自然環境の中での「自然体験学習」や「地場産品を活用した食育」を通じて、江別市の持つ様々な魅力が子どもたちに理解される。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	申込人数	人	23	56	93	93
成果指標2	参加者数	人	23	55	55	56

	事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	205	242	228	260	
正職員人件費(B)	千円	1,901	2,230	1,924	2,371	
総事業費(A+B)	千円	2,106	2,472	2,152	2,631	

	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)
6年度	・レクリエーション ・自然体験学習 ・食育(江別産食材を使った調理体験)	・レクリエーション 108千円 ・自然体験学習 41千円 ・食育 48千円 ・保険料 12千円 ・チラシ 14千円

### 事業開始背景

令和2年度に、内閣官房が実施する、少子化対策の必要性を検討するための調査研究事業に江別市が参加し、地域分析を行った。令和3年度は、庁内横断的に少子化対策の事業を考案するための組織「少子化対策庁内連携会議」が設置され、少子化対策の観点で「子育て・就労を充実させること」（子育て・就労部会担当）と「住まいやあそび場などの魅力を創出すること」（魅力創出部会担当）の2点にテーマを絞り、令和4年度の新規事業化に向けた検討を行った。検討の結果、少子化対策庁内連携会議（魅力創出部会）から、都市と農村の交流センター「えみくる」を拠点とした「道産木材を活用した魅力的な遊び場創設事業」と、その魅力をさらに高めるためのソフト事業として本事業が提言され、令和4年度の事業化に至った。

### 事業を取り巻く環境変化

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	令和6年度の応募者数は前年度を大きく上回る形となった。江別の食材の利用等により、地元の魅力を発見できる内容となっており、成果は上がっている。
	どちらかといえば上がっている	
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	本事業は令和4年度から始まり、年々参加申込者数は増加している。今後も申込者数が増加することが予想される。
	成果向上余地 中	
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある	必要最低限の経費で実施しており、これ以上のコスト削減は困難である。
	なし	

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	昭和33年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金 行事イベント補助

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・はたちのつどい実行委員会
- ・20歳年齢到達者

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	実行委員数	人	4	3	3	5
対象指標2	20歳の年齢到達者数	人	1,362	1,293	1,301	1,156

## 手段（事務事業の内容、手法）

- ・その年度に20歳（はたち）となる青年の有志から構成される実行委員会を組織し、実行委員会が自ら企画や準備を行い、「はたちのつどい」を開催する。
- ・「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき、江別市はたちのつどい実行委員会に対して、「はたちのつどい」の開催に必要となる経費について補助金を交付する。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	補助金額	千円	180	180	200	200
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

- ・20歳（はたち）の年齢到達に伴い、成年としてのほぼすべての権利行使できるようになる人生の節目を祝福・激励することで、参加した20歳年齢到達者に対して、自らが自立した社会人であることへの責任と自覚を促し、より良い社会の創造への貢献の決意に加え、市民としての連帯感を高める。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	はたちのつどい出席者数	人	762	804	737	737
成果指標2	出席率	%	55.95	62.2	56.65	58

	事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	569	508	541	580	
正職員人件費(B)	千円	1,901	2,230	2,309	2,371	
総事業費(A+B)	千円	2,470	2,738	2,850	2,951	

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）		
		6年度	実行委員会への補助	200千円
6年度	・実行委員会の組織化及び式典の運営 ・案内状の送付 ・しおりの作成 ・はたちのつどいの開催及び運営		・実行委員会への補助	200千円
			・案内状の郵送料	110千円
			・しおりの印刷費用	40千円
			・会場使用料	190千円

### 事業開始背景

過去には、式典中に新成人の起こす問題行動が散見される時代があったため、未成年から成年となった自覚を意識付けるための式典を円滑に行なうことを目的に、有志の新成人から構成される実行委員会の設置及び実行委員会への補助事業に見直しを行い、行政と実行委員会が協働して式典を企画・運営することで一体感を持たせた。

### 事業を取り巻く環境変化

江別市でも、過去には式典中及び式典前後の問題行動が見られたが、近年は問題行動もなく落ちついている。2022年4月に民法を一部改正する法律が施行され、成年年齢が20歳から18歳に引き下がった。これに伴い、本事業は、事業名を「成人式開催事業」から「はたちのつどい開催事業」に変更し、事業の対象者を新たな成年年齢（18歳）ではなく20歳のまま維持して事業を継続している。

過去からも、新成人やそのご家族のは式典を心待ちにしており、事業の見直しを行った「はたちのつどい」においても同様に20歳年齢到達者やそのご家族が本事業の開催を心待ちにしている。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がっている	理由根拠
	どちらかといえば上がっている	出席率はほぼ横ばいで一定の水準を維持しており、はたちとなる青年の有志から構成される実行委員会を組織し、当事者の視点から、20歳の節目にふさわしく楽しめる企画を検討し、多くの参加を得られるように実施している。
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	毎年、実行委員会を組織し、当事者の視点から、対象者の求める内容や楽しめる企画を検討し、多くの参加を得られるよう努めているが、対象となる20歳年齢到達者は減少しており、成果の向上余地は少ないと考えられる。
	成果向上余地 中	
	成果向上余地 小	
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある	これまで、継続的にコスト削減を図っており、これ以上の削減は成果の低減を招く可能性が高い。
	なし	

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

65歳以上の市民

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	65歳以上の市民	人	37,952	38,246	38,506	38,506
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

高齢者の学習機会として、蒼樹大学を開催する。  
5~3月に毎月1回学習会開催

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	講座開催数	回	51	51	59	59
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

高齢者一人ひとりが生きがいを見出し、地域で活かすことのできる知識や技術を獲得する。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	学生数	人	83	90	127	180
成果指標2	出席率	%	77	85	88	89

	事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	460	461	465	501	
正職員人件費(B)	千円	1,901	1,487	1,539	1,581	
総事業費(A+B)	千円	2,361	1,948	2,004	2,082	

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
6年度	現代的課題や歴史等を学ぶ教養講座と、選択制の専攻講座（コーラス、太極拳、ふるさと学、絵手紙、体操、パーカッション（新設））を実施。	蒼樹大学開催に係る費用 465千円

<b>事業開始背景</b>
・昭和47年5月、高齢者に教育の機会を提供し、各種教育活動を通じて、身体的能力及び精神的機能を維持増進させ、生きがいを得ることによって老齢期の充実した人生を送ることができるよう目的に開設。
<b>事業を取り巻く環境変化</b>
・高齢化が進む現代では、生きがい提供の場としてだけでなく、高齢者が積極的に社会参加しまちづくりの一翼を担う存在となることが理想である。

<b>令和 6年度の実績による担当課の評価（令和 7年度7月時点）</b>			
<b>成果動向及び原因分析</b>	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	コロナ禍は入学者の募集定員を減らしていたが、令和 6年度から定員の制限をなくしたこと、学生数が増え、出席率も上がってきている。	
	上がる どちらかといえば上がる 上がっていない	理由 根拠	→
<b>成果向上余地</b>	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	コロナが収束することで入学者数の増加が見込まれるほか、高齢者のニーズに合った講座内容を企画することで、出席率も向上する余地がある。	
	成果向上余地 大 成果向上余地 中	理由 根拠	→
	成果向上余地 小		
(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？			
<b>コスト</b>	ある	地域住民や行政機関の職員に講演を依頼するなど経費削減に努めており、これ以上の削減は事業の縮小に繋がり、成果の低下が懸念される。	
	なし	理由 根拠	→

## 令和7年度 事務事業評価表【評価版】(令和6年度実績)

事業名：えべつ市民カレッジ(四大学等連携生涯学習講座)事業

【事業番号】

615】

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦 略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	平成12年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象(誰、何に対して事業を行うのか)

高校生以上の市民

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	高校生以上の市民	人	104,684	104,234	103,693	103,693
対象指標2						

## 手段(事務事業の内容、手法)

- 市内4大学との共催で行う連携講座「ふるさと江別塾」の開催。
- 市内4大学や社会教育関係団体が主催する市民向け講座、市主催の講座を「えべつ市民カレッジ」として位置付け、総合的に学ぶ機会を提供する。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	連携団体数	団体	6	7	7	7
活動指標2						

## 意図(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)

知的資源を有する市内4大学等と連携し、様々な市民の学習要求に応えることにより、学習・文化活動・スポーツを気軽に見える環境をつくるとともに、まちづくりの身近な地域課題に対する気づきの機会も提供されている。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	えべつ市民カレッジ講座数	講座	103	117	141	141
成果指標2						

事業費の推移		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事 業 費 (A)	千円	134	164	188	191	
正職員人件費 (B)	千円	2,661	2,602	2,693	2,766	
総 事 業 費 (A+B)	千円	2,795	2,766	2,881	2,957	

年度	事業内容(主なもの)	費用内訳(主なもの)	
		経費	料金
6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内4大学と連携を図りながら、各大学を会場とした「ふるさと江別塾」を開催する。</li> <li>ふるさと江別塾に加え、各大学等で開催している市民公開講座、市や社会教育関係団体等が主催する講座と連携し、それらの講座をえべつ市民カレッジとして位置付け、総合的に市民へ情報提供する。</li> <li>受講履歴を記録できるカレッジ手帳により、受講単位に応じて称号を授与する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと江別塾開催に係る経費 116千円</li> <li>えべつ市民カレッジ受講シール、称号授与に係る経費 72千円</li> </ul>	

### 事業開始背景

- ・以前は各大学が独自の日程や内容により、各種講座を公開していたが、開催日時の重複や、受講を希望する市民から調整の要望があった。
- ・平成12年度から、市内の4大学と市の共催により「ふるさと江別塾」を開催した。
- ・平成26年度からは、市が市内4大学で開催している市民公開講座と連携し、それらの講座を「えべつ市民カレッジ」と位置付け、総合的に市民へ学ぶ機会の提供を開始した。

### 事業を取り巻く環境変化

- ・各大学において、教育の振興や地域社会の発展を目的とした産学官連携・地域貢献の意識が高まっている。
- ・新型コロナウィルス感染症対策として、オンライン方式により講座が開催されるようになり、コロナ禍以降も、対面の実施方法に加えて、継続して開催されている。

### 令和 6年度の実績による担当課の評価（令和 7年度7月時点）

成 果 動 向 及 び 原 因 分 析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がっている どちらかといえば上がっている 上がっていない	理由根拠
		オンライン講座が浸透したことに加え、各団体の実施講座数がコロナ禍以前の水準に戻ってきている。
成 果 向 上 余 地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大 成果向上余地 中 成果向上余地 小	オンライン方式の講座が増えているが、対面方式の講座の実施数もコロナ禍以前の水準に回復してきている。さらに連携団体も増えたことから成果向上の余地はある。
コ 料	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある なし	事務コストのほとんどが講座に係る謝礼（ふるさと江別塾）や受講促進に係る経費であり、これ以上のコスト削減は成果の低下につながる。

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	—	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金 事業補助

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

児童・生徒の健全育成と幅広い世代間の交流等の社会教育活動を実施する地域の団体。

指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1 極端な対象事業数	団体	11	11	15	15
対象指標2					

## 手段（事務事業の内容、手法）

交流事業や芸術文化事業等に対し、「江別市教育振興事業補助金規則」に基づき、事業費の一部を支援する。

指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1 極端な補助金額	千円	795	835	988	1,200
活動指標2					

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

各団体等が独立して活動を行うことにより、社会教育の充実が促進される。また、団体が地域と協働で活動することにより、地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりを図る。

指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1 事業参加者数	人	4,715	5,945	5,579	5,579
成果指標2					

事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	795	835	988	1,200
正職員人件費(B)	千円	760	743	770	790
総事業費(A+B)	千円	1,555	1,578	1,758	1,990

年度	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）	
		費用内訳	主なもの
6年度	社会教育の振興及び地域活動団体の育成・促進事業を実施する市内の団体などに対して、事業費の一部を支援する。	青少年ふれあい交流促進事業補助金	988千円

### 事業開始背景

平成29年度に「青少年ふれあい交流促進事業」と「発表の場拡大事業」を統合してできた補助金である。「発表の場拡大事業」は、芸術文化活動団体が日頃の活動の成果を発表する際の会場使用料を補助対象としていたが、活動の発表だけでなく、地域の児童・生徒の健全育成と幅広い世代間の交流を図るための活動として促進するため、「青少年ふれあい交流促進事業」に統合した。

### 事業を取り巻く環境変化

- ・平成18年度から「社会教育事業」と「文化振興事業」を統合。
- ・平成27年度から「青少年ふれあい交流事業」と「子どもを見守る地域ふれあい事業」を統合。
- ・平成29年度から「青少年ふれあい交流促進事業」と「発表の場拡大事業」を統合。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	令和5年度と比較すると令和6年度の事業参加者数は減少しているが、地域の団体等の事業はコロナ禍以前の水準に戻ってきており、補助事業の認知度向上により補助対象事業数は増加している。
	どちらかといえば上がっている	理由根拠
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	各種活動団体の事業がコロナ禍以前の水準に戻ってきており、補助金の申請団体が増加傾向にあることから、事業参加者数の増加も見込まれる。
	成果向上余地 中	理由根拠
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある	昨日の物価高騰に加え、補助金交付団体の多くは財政基盤が脆弱な団体であり、最低限の経費で事業を実施しているため、コストの削減は事業の縮小に繋がり、成果の低下が懸念される。
	なし	理由根拠

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	一	終了年度	一	区分1	継続	区分2	単独	補助金 事業補助

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

江別市女性団体協議会、江別市聚楽学園、江別市生涯学習推進協議会

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	補助団体数	団体	3	3	3	3
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

「江別市女性団体協議会」、「江別市聚楽学園」、「江別市生涯学習推進協議会」に対し、「江別市教育振興事業補助金交付規則」に基づき補助金を交付する。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	補助金額	千円	2,170	2,170	2,220	2,195
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

それぞれの団体が独立して活動を行うことで、社会教育活動が活性化する。

指標名		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	事業参加者数	人	2,455	2,499	2,589	2,547
成果指標2						

事業費の推移		単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	2,170	2,170	2,220	2,195	
正職員人件費(B)	千円	4,182	3,717	3,848	3,952	
総事業費(A+B)	千円	6,352	5,887	6,068	6,147	

年度	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）		
		・江別市女性団体協議会への補助金 450千円	・江別市生涯学習推進協議会への補助金 1,000千円	・江別市聚楽学園への補助金 770千円
6年度	・「江別市女性団体協議会」、「江別市生涯学習推進協議会」、「江別市聚楽学園」への補助金交付			

### 事業開始背景

社会教育認定団体として、社会教育活動の活性化という同じ目的に向かった活動を行っている団体への支援を行う。

### 事業を取り巻く環境変化

- ・それぞれの団体が担っている役割は大きく、各団体の特徴ある活動は江別の社会教育・生涯学習施策に大きく貢献している。
- ・令和4年度から江別市PTA連合会補助金を家庭教育支援事業に統合し、市PTA連が行っている他の研修会等も家庭教育支援事業として一体的に事業展開する。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	事業数・事業規模がコロナ禍以前の水準に戻りつつあり、事業参加者数は増加している。
	どちらかといえば上がっている	理由根拠
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	各団体が実施する事業数、規模が拡大傾向にあることから事業参加者数が増加していくと見込まれる。
	成果向上余地 中	理由根拠
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありませんか？	
	ある	各団体において、事業内容の充実を図りながら最低限の費用で活動しており、補助金の削減は団体運営の停滞につながる。
	なし	理由根拠

政策	7 生涯学習・文化・スポーツ	戦略						
取組の基本方針	(1) 生涯学習の充実	具体的な施策						
開始年度	平成29年度	終了年度	—	区分1	継続	区分2	単独	補助金

## 事務事業の目的と成果及び指標

## 対象（誰、何に対して事業を行うのか）

- ・子育て中の保護者、一般市民
- ・江別市PTA連合会

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
対象指標1	小中学校の家庭数	件	7,112	7,150	7,139	7,139
対象指標2						

## 手段（事務事業の内容、手法）

- ・家庭教育に係る研修会等の実施
- ・江別市PTA連合会に対し、「江別市教育振興事業補助金規則」に基づき、補助金を交付する。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
活動指標1	事業開催数	回	6	4	5	5
活動指標2						

## 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）

子育て中の保護者の悩みや不安の軽減に繋がる支援を行う。

	指標名	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
成果指標1	事業参加者数	人	173	229	321	321
成果指標2						

	事業費の推移	単位	4年度実績	5年度実績	6年度実績	7年度当初
事業費(A)	千円	364	508	508	508	508
正職員人件費(B)	千円	1,521	1,115	1,154	1,186	
総事業費(A+B)	千円	1,885	1,623	1,662	1,694	

	事業内容（主なもの）	費用内訳（主なもの）
6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江別市PTA連合会への補助金交付</li> <li>・家庭教育に関する研修会等の開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・江別市PTA連合会への補助金 408千円</li> <li>・家庭問題研究会への研修委託料 100千円</li> </ul>

### 事業開始背景

平成28年度までは、未就学児を持つ保護者を対象に学習の機会（青空子どもの広場）を提供してきたが、子育て支援室で行っている事業の充実により、当該事業への参加者が減少傾向にあった。これまで就学児童の保護者に対する学習機会の提供がされておらず、ここを発掘してニーズに応えることにより、子育て環境の充実を図ることとして事業を開始した。

### 事業を取り巻く環境変化

親子向けの体験事業や保護者向けの学習機会の提供を行ってきており、令和4年度から江別市PTA連合会補助金を当事業に組み入れた。

### 令和6年度の実績による担当課の評価（令和7年度7月時点）

成果動向及び原因分析	(1) 計画どおりに成果指標は上がっていますか？成果指標が上がっている理由、上がっていない理由は何ですか？	
	上がる	活動等がコロナ禍以前の状況に戻りつつあることで、参加者数の増加につながった。
	どちらかといえば上がっている	理由根拠
成果向上余地	(2) 成果指標が向上する余地（可能性）はありますか？その理由は何ですか？	
	成果向上余地 大	家庭環境の多様化に伴い、子育てについての不安・孤立を感じる家庭や、子どもの社会性や自立心、基本的生活習慣の育成に課題を抱える家庭が増えていることから、保護者のニーズを捉えたテーマや講師を選定することで、より多くの保護者や関係者に対して参加意欲を向上させる余地がある。
	成果向上余地 中	理由根拠
コスト	(3) 成果指標を落とさずに、コスト（予算や所要時間）を削減する方法はありますか？	
	ある	使用料がかからない会場で講演するなど、必要最低限の経費に努めることから、予算の削減は事業の縮小に繋がり、成果の低下が懸念される。
	なし	理由根拠